

The Japan Association of Chinese Language Education

中国語教育学会会報

第 35 号(通巻 60 号)2012 年 9 月 12 日発行

〒192-0393

東京都八王子市東中野 742-1

中央大学法学部 佐藤富士雄研究室内

中国語教育学会

HP <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

1. 第 10 回全国大会について

中国語教育学会発足 10 周年（前身である中国語教育協議会発足から 15 周年）に当たる第 10 回全国大会は、去る 6 月 2 日（土）、3 日（日）の両日、「21 世紀の中国語教育を考える グローバル社会を生きる人材を育てるという視点から」をメインテーマに、千葉県美浜区の神田外語大学を会場に、高等学校中国語教育研究会（高中研）との合同大会の形で、盛大に開催されました。

初日の 2 日は、午前中に編集委員会と理事会が行われ、午後からは会員総会、開会式（両学会代表の挨拶、会場校学長酒井邦弥氏の挨拶、来賓の挨拶）、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦氏による基調講演、沖縄県立向陽高校城間真理子氏と関西学院大学胡玉華氏による実践報告、高中研代表理事の藤井達也氏と本学会理事の岩本真理氏による活動報告が行われました。休憩を挟んで質疑応答が行われた後、夕方からは食堂ラパスで懇親会が和やかに開催されました。

第 2 日の 3 日は、午前が 4 つの分科会、午後は 3 つの分科会に分かれて、合計 20 本の研究発表と質疑応答が行われ、活発な議論が繰り広げられました。参加者は、大会が 280 名（一般 258 名、書店関係 18 名、来賓 2 名、講演者 1 名、会場校学長 1 名）、懇親会が奥水優顧問を含めて 153 名でした。関係者の皆様の御尽力に感謝致します。

2. 会員動向並びに会費納入状況について

- ・ 2012 年 9 月 10 日現在の会員数は、一般会員 456 名、名誉会員 11 名。ほかに連絡の付かない会員 21 名
- ・ 2012 年 6 月 1 日から 2012 年 9 月 10 日までの新入会者数：9 名 + 1 団体
- ・ 新入会者氏名：石井友美（お茶の水女子大学・院）、今村圭（筑波大学・院）、烏仁（静岡市国際交流協会）及川茜（神田外語大学）、王慶（九州外国語学院・非）、荻野裕子（華中師範大学・院）、小澤光恵（日中学院非常勤講師）、木子香（大阪電気通信大学）、曹泰和（お茶の水女子大学・非）、白水社編集部
- ・ 同、退会者数：4 名。会費未納による除籍者数：17 名
- ・ 2012 年 9 月 10 日現在の会費納付者数：302 名。納付率：66%

3. 2012 年度第 1 回理事会報告

- ・ 6 月 2 日 11 時 00 分から 12 時 40 分まで、神田外語大学 4 号館 1 階 4 - 105 教室で開催された。
- ・ 出席者：（会長）佐藤富士雄、（代表理事）郭春貴、平井和之、藤井達也、三宅登之、山崎直樹、山田眞一、（理事）荒川清秀、岩本真理、植村麻紀子、大川完三郎、加藤晴子、清原文代、日下恒夫、胡興智、佐々木勲人、田邊鉄、陳淑梅、西香織、古川裕、丸尾誠、村上公一、依藤醇、（幹事）原正人、大宅利美、（前期幹事）塩山正純、中西千香（敬称略）

報告事項 1 . 2011 年度決算報告案、2012 年度予算案について（末尾資料参照）

中西前期幹事から、2011 年度の「事務費」が予算を上回ったのは名簿作成のためとの報告があった。

原幹事から、第 10 回全国大会では海外からの講演者も依頼しているため、2012 年度予算では「諸会議費」から 10 万円を「大会予備費」として計上した。開催後に精算して、剰余金を「諸会議費」に戻すこともあり得ると報告された。「大会費」と別に「大会予備費」を組む必要があるのかという理事の意見もあったが、現時点では「大会予備費」としておき、次の理事会で議論することとなった。

また、荒川前会長から、2011 年度は、会誌のページ数の増加により印刷費が予算を超えた。次号も力作が揃った場合、いずれかの費目から印刷費を捻出する必要があるとの見通しが示された。「予備費」から支出してはという意見もあったが、原稿が揃ってから検討することとなった。

報告事項 2 . 会員動向と会費納入状況について

事務局の原幹事から、5 月末現在の会員数と新入会者、退会者等の内訳を紹介した後、会費未納による除籍該当者に対し、納入を促す努力をすることが確認された。

報告事項 3 . 編集委員会報告（4 の「編集委員会報告」の項も参照）

山田編集委員長より、直前に開催された 2012 年度第 1 回編集委員会で決定した、「投稿規定」および「執筆要領」について、主に以下の変更点の説明があり、審議の結果、いずれも承認された。

- 1) 投稿は委嘱原稿を除いて、投稿時点でその年度までの会費納入済みの中国語教育学会会員に限る。
- 2) 投稿原稿の種別を、「論文、実践報告、資料、書評」の 4 つとする。
- 3) 投稿原稿の分量は、「全体で 21 枚以内とする。」に改めること。
- 4) 執筆要領に沿った見本を学会ホームページ上に掲載する。

また、投稿先を事務局とすることに対する不安も指摘されたが、当面現状のままとすることが了承された。

報告事項 4 . 地区主催の研究会について

関東地区責任者：7 月の麗澤大学、10 月の大東文化大学における研究会に加えて、年度内にもう 1 回開催する予定である。

関西地区責任者：7 月に実験的にセミナーを開催し、今後の方向性を探ってゆく。

九州地区責任者：昨年度に引き続き、今年度も年明けに研究会を開催する予定である。

これにともない、「地区研究会」という名称に対し、「支部例会」のようで、全国から会員が集う研究会というイメージがない、との疑問が提起された。それに対し、「地区主催の研究会」とする案、通常の研究会は「地区研究会」とし、全国型の場合は「公開ワークショップ」とする案などが出され、結局今後も改善案を募って、審議を続けることとなった。

報告事項 5 . 中国語教育ハンドブックの作成について

目下のところ大きな動きはない。全国大会の懇親会で掲示板を立てて意見を募るなど、要望を集めているところである。

報告事項 6 . 中国語教育セミナーの実施について

7 月の関西地区を皮切りに、まず地区レベルで試行することになった。

議題 1 . 名誉会員の推薦について

今回は具体的な候補者名は挙げられなかった。

議題 2 . 2013 年度全国大会開催校について

佐藤会長から、理事会開催時点までに立候補する大学は現れておらず、総会で呼びかけても現れない場合は、事務局を置いている中央大学で引き受けることにしたい旨の発言があり、理事会に了承された。

議題 3 . 会費滞納による除籍の基準について

現行では、2年間滞納した場合、会誌の送付を停止し、会費納入を督促して、3年目も滞納した場合に除籍を決定している。これを1年ずつ短縮する案が出されたが、当面は変更しないこととなった。

議題4 「シニア会員」制度導入について

理事会では、これまでも「終身会員」や「シルバー会員」等の制度の導入について検討を行ってきた。今回は普通会员よりも若干低めの会費で会員としての活動を保証する「シニア会員」制度の導入を検討したが、会の財政状況などを慎重に考慮すべきだとの意見もあり、見送ることになった。

議題5 「院生会員」制度導入について

大学院生の入会を促す意味で、会費を一般会員よりも若干抑えた「院生会員」制度を導入する提案があったが、事務局の負担が増すことなどの理由で、今回は見送ることになった。

議題6 その他

入会申込書の中国語版が必要ではないか。「執筆要領」の中国語版も備えて、国際的に開かれた姿勢をアピールすべきではないか。等の意見が出された。これらについては、「会則」やホームページ全体の中国語版制作にまでつながるため、継続して審議することとなった。

4. 2012年度第1回、第2回編集委員会報告

2012年6月2日の第1回、7月30日の第2回編集委員会での審議の結果、現行の「『中国語教育』編集委員会に関する内規」を以下のように改訂し、次回の理事会で承認を得るまでの間、暫定的にこの改訂案に従って編集作業を進めることにする。

・「『中国語教育』編集委員会に関する内規」(改訂案)の内容

(1) 所管事項

学会誌『中国語教育』の編集及び関連する諸業務(変更なし)

(2) 委員会の構成

ア 委員会は8名の委員をもって構成する。(現行内規では7名)

イ 委員の互選により委員長を選出する。(現行内規には委員長の選出に関する規定なし)

ウ 委員長は会議を招集し、その議長となる。(現行内規には委員長の職務に関する規定なし)

エ 委員長に事故あるときは、委員長が前もって指名する委員が代理を務める。(現行内規には委員長代理に関する規定なし)

(3) 委員の改選

委員の改選は、会員の中から本委員会が選出し、理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

(現行内規には委員の選出母体に関する規定なし)

(4) 委員の任期

委員の任期は会計年度と連動し、原則2年とする。ただし再任を妨げない。(現行内規では「委員の任期は原則として、12月の理事会終了後翌々年度大会終了時までの2年とし、再任を妨げない。委員長の任期は2年とする。なお、委員は毎回4名を改選する。」)

・「『中国語教育』編集委員会に関する内規」改訂の理由

1. 編集作業を効率的に進めるには委員の数を8名としたほうがよい。

2. 委員の互選により委員長を選ぶということを内規に明記したほうがよい。

3. 委員長の代理を設けることを内規に明記したほうがよい。

4. これまでの慣行では、編集委員を理事から選出していたが、委員の人数と委員の改選を考えた場合、

理事以外からも委員を選べるようにしたほうがよい。

5. 学会誌の発行日は3月末であり、編集作業は12月の理事会終了後も続くので、委員の任期も会計年度に連動し3月末までにしたほうがよい。
6. 委員の交代スケジュールは内規に盛り込まず、申し合わせ事項としたほうが、運用上都合がよい。なお、委員長の任期は1年とすることを申し合わせ事項とする。(ただし、現委員長は11号、12号を担当する)

5. 会員総会報告

会員総会は6月2日13時00分から13時45分まで、神田外語大学4号館4-101教室で開催された。

審議すべき事項の多さに比して審議時間が短かったため、会長から原幹事に司会を依頼し、原幹事が直前に開催された理事会の審議結果を踏まえて報告事項と議題の説明を行った後、司会にも当たるという変則的な議事運営となった。今回は通常の議事運営に戻す必要があると考える。なお、審議の結果はいずれも原案通り承認された(「理事会報告」参照)。

報告事項：

1. 会計報告(2011年度決算報告、2012年度予算案)
2. 会員動向、会費納入状況
3. 編集委員会報告
4. 地区主催の研究会について
5. 中国語教育ハンドブックの作成について
6. 中国語教育セミナーの実施について

議題：

1. 名誉会員の推薦について(会場からの推薦もなかった)
2. 2013年度全国大会開催校について(会場からの立候補校はなく、一定期間を経てほかに立候補校がない場合、事務局の置かれている中央大学多摩キャンパスで開催することが了承された。)
3. 会費滞納による除籍の基準について
4. 「シニア会員」制度の導入について
5. 「院生会員」制度の新設について
6. その他

6. 事務局よりお願い

これまでに多くの会員から今年度の学会費をご納入いただきありがとうございます。ご納入がお済みでない方も、引き続き受付いたしますので、お早めにご納入ください。口座については、本会報の上部およびホームページに記載されております。なお、3年以上滞納された会員につきましては、理事会の承認を得て除籍となりますのでご注意ください。

また、年々連絡先の分からない会員が増加しています。学会の運営にも関わりますので、転居された際には必ず事務局までご連絡いただけますようお願いいたします。その際、事務手続きの煩雑を避けるため、振込用紙への記入はお避けください。

7. 会誌『中国語教育』第11号原稿募集のお知らせ

ただいま2013年3月刊行予定の会誌『中国語教育』第11号の原稿を募集しております。ホームページに掲

載の「投稿規定」と「執筆要領」を厳守の上、事務局宛にご投稿ください。締め切りは本年11月3日です。

8. 各地区主催の研究会の実績と予定

【関西地区】

第1回：2012年7月14日(土); 会場：関西大学

研究発表：岡本 敏裕氏(京都外国語大学)「創作によるモチベーションの創出 中英2言語同時学習授業からのYouTube発信」

中国語の文法に関するプチ・セミナー：小島 美由紀氏(関西大学)「ほんとうは違うアレとコレ」

教材作成ワークショップ：清原 文代氏(大阪府立大学)「デジタルフラッシュカードの作りかた 音が
出てゲームもできる単語カードを無料で作る！」

【関東地区】

第1回：2012年7月21日(土); 会場：麗澤大学

研究発表1：今村 圭氏(筑波大学院生)「現代中国語における使役動詞“叫”の機能縮小 “让”との比較から」

研究発表2：齋藤 貴史氏(麗澤大学)「新HSK問題分析 並べ替え問題を中心に」

研究発表3：鈴木 誠氏(麗澤大学)「『速読』授業の実践報告」

第2回：2012年10月6日(土) 予定; 会場：大東文化大学板橋校舎3号館1階1F30105教室

研究発表1：板垣 友子氏(大東文化大学院生)「中国語教本『官話急就篇』と『急就篇』の語彙について」

研究発表2：瀬戸口 律子氏(大東文化大学)「18世紀琉球久米村の中国語教育について」

9. 中国語教育に関する他機関主催の行事の情報

HSK 中国語教師研修プログラム

主催：早稲田大学孔子学院

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11号館703室

日時：2012年9月18日(火)~20日(木)

参加費：無料

申込方法：参加申込表に記入の上、電子メールで早稲田大学孔子学院宛に送る(9月17日締切)。

日本 e-Learning 学会 2012 年度学術講演会

日時：2012年11月9日(金)~10日(土)

場所：大手前大学さくら夙川キャンパス メディアライブラリーCELL

申込方法：氏名・大学名・所属部署・役職・所属学会名・メールアドレス・郵便番号・住所・電話番号をメールにて事務局宛10月10日までに申込み、10月20日までに参加費用を下記宛振込む(振込手数料はご負担お願い致します)。

三菱東京UFJ銀行 二子玉川支店

特定非営利活動法人 日本 e-Learning 学会 トクヒ)ニホンイーラーニング

普通預金口座 3 8 3 9 7 2 4

参加費(中国語教育学会会員): 上記期間中に申込・振込の場合は5000円(学生3000円) それ以降は8000円(学生5000円)

なお、発表申込はすでに締め切られています。

< 資料 >

中国語教育学会 2011 年度会計決算書

< 収入の部 >		予算	決算
会費収入		¥2,000,000	¥2,175,000
会誌売上		¥50,000	¥145,000
繰越金		¥3,229,684	¥3,229,684
合計		¥5,279,684	¥5,549,684
< 支出の部 >		予算	決算
諸会議費		¥400,000	¥55,793
事務費		¥300,000	¥360,540
郵便費		¥300,000	¥248,072
交通費		¥500,000	¥356,000
会誌 (第 10 号) 印刷費		¥300,000	¥355,000
第 9 回大会費		¥400,000	¥400,000
選挙予備費		¥50,000	¥41,030
幹事手当		¥200,000	¥200,000
予備費		¥2,829,684	¥3,533,249
合計		¥5,279,684	¥5,549,684

中国語教育学会 2012 年度予算案

< 収入の部 >		< 支出の部 >	
会費収入	¥2,000,000	諸会議費	¥300,000
会誌売上	¥50,000	事務費	¥300,000
繰越金	¥3,533,249	郵便費	¥300,000
合計	¥5,583,249	交通費	¥500,000
		会誌 (第 11 号) 印刷費	¥400,000
		第 10 回大会費	¥400,000
		第 10 回大会予備費	¥100,000
		幹事手当	¥200,000
		予備費	¥3,083,249
		合計	¥5,583,249

「ホームページ維持費」(年間1万円)を事務費より捻出